

Title	土族の民話「黒馬」のバージョン
Author(s)	角道, 正佳
Citation	大阪外国語大学論集. 11 p.103-p.117
Issue Date	1994-08-25
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/79645">https://hdl.handle.net/11094/79645</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 土族の民話「黒馬」のバージョン

角 道 正 佳

### Versions of the Tuzu Tale 'Black Horse'

KAKUDO Masayoshi

#### 0. はじめに

土族の民話の中に「黒馬」というよく知られた話がある。黒馬から生まれた子供が二人の兄とともにマンガスを退治する話であるが、猫が登場するかどうかで2つのバージョンに分けられる。猫が登場するほうは、猫に消された火を求めてマンガスに出くわし、結局マンガスに住み家を知られてしまう。もう一方のほうはマンガスがかってに現われるという違いがある。これ以外に登場する者、行動の仕方、退治の仕方等、細部にわたって吟味すると各種の違いがある。民話の性質上、語り手の裁量によって描写はある程度どうにでもなるというのが事実であろう。

以下、土族語を記述した3つのバージョンと漢語訳の2つのバージョンについて、細部にわたって描写の異同を検討する。

#### 1. 資料

「黒馬」を記述したものには、まず Schröder (1959: 100-115) がある。これはハルチ・ゴル方言とナリン・ゴル方言の中間の方言の話者 Guänbo-sdzia から収録したものであり、フィノ・ウゴール式の表記とともにドイツ語の訳および解説がついている。次にハルチ・ゴル方言の話者から収録した Тодаева (1973: 282-289) のものがあり、キリル文字による表記およびロシア語の訳がついている。さらに標準語の東溝方言で記された『土族語話語材料』(1988:172-204) がある。<sup>(1)</sup> これは IPA による表記とともに漢語訳がついている。モンゴル語もついているが、これはあくまで語彙的に対応する形式があればそれを、なければ意味的に近い語を付記してあるだけで、モンゴル語だけを追って読んでも意味は通じない。以上が土族語を表記したものである。この3つ以外に漢語訳だけであるが、『土族民間故事選』(1985) の25話のうちの一つの「黒馬張三哥」pp.23-30と『土族撒拉族故事選』の63話のうちの一つの「黒馬張三哥」pp.87-92 がある。前者は講述：李松多、整理：李友楼、後者は流伝地区：青海互助、大通及び甘肅天祝等地、搜集

整理：王殿、許權、李桂蘭、王漠とある。土族語を記述したものは語られたとおりを記してあり、このままでは書き言葉としては洗練されていないものの描写は素朴である。漢語訳のほうは複数の人が関与しており、文体は洗練されたものになっているが、とくにDは描写は素朴ではなく多くの装飾が付け加わっている。

## 2. あらすじ

お婆さんが飼っていた黒馬が仔馬を産んだが、実は馬ではなく子供だった。子供は大きくなって、旅に出て、石兄と木兄に出会う。三人でいっしょに暮らし日中は外へ仕事をしにいつていると、ある日誰かが家に料理を準備してくれていた。石兄や木兄が見張っていたがわからなかった。黒馬（黒馬から生まれた子供）が見張っていると、3羽の鳩がやって来て娘に姿を変え、料理を作っていた。三人姉妹は三人兄弟の妻になる。やがて9つの頭のあるマンガスが現われて妻たちを困らせる。石兄や木兄が守っていたが二人とも失敗した。黒馬の子が見張っていてマンガスの頭を切り落とした。マンガスは逃げて行くが、少年の助けを借りて退治する。

次に各バージョン（A～E）によってどのような異同があるかを見ていく。

- A. Schröder (1959) Hara mori (pp. 100-115)
- B. Тодаева (1973) Hara mori (pp. 282-295 (土族語の部分は pp.282-289))
- C. 『土族語話語材料』(1988) Hara mori (pp.172-204)
- D. 『土族民間故事選』(1985)「黒馬張三哥」(pp.23-30)
- E. 『土族撒拉族故事選』(1992)「黒馬張三哥」(pp.87-92)

## 3. 最初に登場する者

どのバージョンでもお婆さんがまず登場する。CとEには張という姓まで記されている。AとDにはお爺さんも登場するが、お爺さんの役割は殆どない。お婆さんには子供がないというのが各バージョンで共通であるが、Cではかつて息子と娘がいたのにマンガスに食われてしまったことになっている。Eではかつて娘とお爺さんがいたのに、マンガスに食われたとしている。Aにはカササギが登場し黒馬の産んだ胃の始末をしたり、一定の役割を果たすが他のバージョンには登場しない。

## 4. 黒馬は何を産むか

お婆さんが飼っていた黒馬の腹がしだいに大きくなっていつて仔馬を産むのであるが、実は仔

馬ではなかった。何を産んだかがバージョンによって異なっている。A、Bでは胃、Cでは胎包、Dでは肉包、Eでは頭も脳もない衣胎包となっている。<sup>(2)</sup>

#### 5. 黒馬が産んだものをどうするか

Aではお爺さんがカササギに頼んで胃を啄ばんでもらう、Bではお婆さんが外へ捨てに行く、Cではお婆さんが馬槽の底に埋めてしまう、Eでは馬槽の側に埋めてしまう。

#### 6. 子供の誕生を誰がどのように発見するか

Aではカササギが啄ばんでいると中から仔馬が現われ、一週間目に子供に変わる。発見者はお爺さんである。B、Dでは胃（や肉包）が動いているのを村の子供たちが見つけお婆さんに報告する。C、Eでは三日目にお婆さん自身が動いている胎包を切り開き子供を発見する。Dではやはりお婆さんが肉包を切り開いて子供を発見する。

Aでは実際仔馬が生まれ、その皮がきれいになって子供に変わるのであるが、B、C、D、Eでは胃、胎包、肉包、衣胎包の中から子供が出てくるという設定である。生まれた子供はCでは白い太った男の子であり、D、Eでは丸々と太った男の子である。Dのみが誕生後の様子を「欠伸をし、背伸びした」と描写している。

#### 7. 子供はなぜ馬から誕生したか<sup>(3)</sup>

子供の誕生についてはBのみがその理由を語っている。子供のないお婆さんが天に向かって祈願し、その祈りを受けて天が子供を派遣する。その子供はお婆さんの体に宿ると大変なので黒馬に宿ったという理由づけである。

#### 8. 黒馬はどんな馬か

C、Eでは黒馬はお婆さんを助ける良い馬であり、Dではお爺さんとお婆さんが子供のように可愛がっているが、Aでは馬の腹が大きくなっても面倒を見る者はなかったので、カササギに頼んだというように馬に対する態度も異なっている。カササギはAにのみ登場する。

#### 9. 炒麦

A、Bでは黒馬から生まれた子供は他の子供たちから黒馬の子と冷やかされるので、自分の本

当の母親は誰かお婆さんに詰問する。そのとき炒麦をお婆さんの手に押しつけて本当のことを聞き出す。このくだりは他のバージョンには出てこない。<sup>(4)</sup>

#### 10. 黒馬の子は何の目的で旅に出るか

黒馬の子はAでは母親を探しに、Bでは母親と兄弟を探しに出かけるが、C、Eでは話はまったく違い、マンガスに苦しめられた話をお婆さんから聞いて退治に出かける。Dでは世間を知るために旅に出る。

#### 11. 弓と矢

Aでは黒馬の子はお婆さんに饅頭を要求し弓矢を担いで出かける、Bでは弓と矢を要求する、Cでは弓と矢を要求しお婆さんが作ってやる、Dではお爺さんとお婆さんが剣と弓と矢を渡してくれる。これらは悪人をあしらい、自己を守り、誰も危害を加えることができない代々伝わる家宝である。そして、「家では父母に頼り、外では友達に頼れ、お前を罵る者が全て悪人とは限らない」と諭す。黒馬の子はこの教訓を思い出し、石兄、木兄から怒鳴られても兄弟になる。

#### 12. 黒馬の子の年齢

黒馬の子はAでは7歳になるまで勉強し、C、Eでは4、5歳、Dでは十数歳となっている。Bには年齢に関する描写はない。

#### 13. 石兄、木兄<sup>(5)</sup>

黒馬の子は途中で二人の人と知り合う。この順序がAでは木兄、石兄であるが、B、C、D、Eでは石兄、木兄である。このとき、黒馬の子は石と木に向かって矢を射る。石と木からそれぞれ人が出てきて黒馬の子の兄になる。Dによると、石兄は18歳、木兄は17歳、このとき黒馬の子は16歳である。

#### 14. 石兄と木兄はどこから出てくるか

石兄はAでは石の間から、Bでは石の中から、Cでは石のような家の下から、D、Eでは石の下から出てくる。木兄はAでは木の間の煙の中から、B、Eでは木の中からC、Dでは木の下から出てくる。

15. なぜ矢を射ったか

矢を射った理由はEにのみ、大きな石のような家を見てマンガスの住み家だと思ったからだと言っている。またEのみがマンガスを探していることを木兄と石兄に伝えている。他のバージョンでは単に兄弟を探しているのである。

16. 石兄、木兄は何者か

石兄、木兄が何者であるかはDにのみ描写がある。石兄は幼い頃から父母がなく、一人で石の底に住み、弓で豚を捕まえて暮らしていて名前は分からない。木兄は幼い頃から父母はなく一人で木の底に住み、斧で柴を刈って暮らしていて名前は分からない。石兄も木兄も石や木から出てきたからそう名づけたのである。年齢についてもDのみが記述してある。

17. 黒馬の子は石兄と木兄の所で一泊するか

Dによると、黒馬の子は石兄に会ったとき石兄の所で一泊し、木兄に会ったとき木兄の所で一泊する。こういった描写も他のバージョンにはない。

18. 三人はどんな所へやって来て何をするか

三人がやって来た所はCでは何もない大きな谷、Dでは山紫水明の地、Eでは深い山の谷である。A、Bには描写がない。三人はA、B、D、Eでは家を建てたことになっているが、Cでは醜い家が一軒あったことになっている。三人は昼は労働をするが、その内容はAでは柴を刈る、B、C、Eでは獣（あるいは豚）を狩る、Dでは柴を刈り豚を狩るという違いがある。Dでは建てた家は庭付きで、仙女が見て羨ましがるといふほど立派なものである。

19. 黒馬の子に誰が名付けるか。

A、Bでは三人が出会ったところで石兄、木兄、馬兄（あるいは黒馬兄）と自分たちが命名するが、C、Eではお婆さんが子供が生まれたときに黒馬（あるいは黒馬兄）と命名し、後に三人が出会ったところで黒馬張三哥と自分から呼ばせている。

## 20. 料理の出現

三人が昼間労働をしている間に誰かが料理を用意してくれるのであるが、最初の料理が出現するのがAでは家を建てた日、Bでは家を建てた数日後、C、Dではある日となっているのに対して、Dでは旧暦4月8日と日付まで明記してある。<sup>(6)</sup> この日は仙女の誕生日である。三人娘が鳩に変身して現われて料理を用意する。

## 21. 三人娘は何者か

三人娘の素性についてはC、D、Eにしか描写がない。この経緯についてはDが最も詳しい。仙女の誕生日を祝う地上からの香が天に届いたので、娘たちが下界を見て、そのすばらしさ、三人兄弟の活躍ぶりに感動し、天の掟を破り、鳩に変身して降りて行くのである。天には若い男性がいないのも理由の一つである。鳩に変身するというのはA～Eに共通である。

## 22. どんな料理か<sup>(7)</sup>

三人兄弟が労働から帰ってくると用意されていたものは、Aでは食物、Bでは料理と飲み物、Cでは飲み物、Dではお茶、餅、肉、Eでは飯である。Dではこの描写が「三人娘は鳩の衣を脱いで袖をまくり、手を洗って、お茶を沸かし、餅を焼き、肉を煮て、整えて、食卓の上に並べた」と詳しい。

## 23. 料理を毒味するかどうか

料理を見つけた三人兄弟は食べようとするが、黒馬の子が毒味をするかどうかには違いがある。B、Cでは毒味をするが、A、D、Eではしないですぐ食べ始める。

## 24. 誰が料理を用意するのかの見張り

誰が料理を用意するのかを石兄が見張るが失敗し、次に木兄が見張るがまた失敗し、最後に黒馬の子が見張って成功する。どこで見張ったか、なぜ失敗したかが各バージョンで微妙に違っている。その様子を表にして示すと次のようになる。

	見張りの場所			失敗した理由		
	石兄	木兄	黒馬の子	石兄	木兄	黒馬の子
A	—	—	—	居眠り	居眠り	成功
B	—	—	—	居眠り	居眠り	成功
C	門	オンドル <sup>(8)</sup>	オンドル	—	—	成功
D	門	家	オンドル	—	—	成功
E	門	オンドル	オンドル	—	—	成功

A, Bでは見張りの場所が表現されていないが、失敗したのは居眠りしたからである。一方C, D, Eでは見張りの場所がそれぞれ微妙に違うが、失敗したのは居眠りしたからではなく、気が付かないうちに家に入ってきていたからである。

## 25. 三人娘の選び方およびその顔

黒馬の子に見つかった三人娘は、三人兄弟の妻になるが、そのなり方、誰が誰を選ぶか、娘たちの容貌はどうであるかが少しずつ違っている。A, Bでは娘のほうから「妻がいないなら妻になります。娘がいないなら娘になります。」と言っているのに対し、C, Eでは黒馬の子から妻になるように求められる。Dではどちらから言ったかわからない。

A, Bでは黒馬の子が悪巧みを考えて、三人娘のうちから最も美しいのを選んで黒い煤を塗っておいて、兄弟たちが他の娘を選ぶように仕向ける。兄たちが娘を選んだ後、顔を洗うと黒馬の子の選んだ娘が最も美しく他の二人は醜かった。C, Eでは煤を塗るのではなく黒くて12月の梅のようであると表現されていて、他の二人も桃の花のように美しかった。

## 26. お婆さんを連れてくるかどうか

三人兄弟と妻たちは仲良く暮らしているのであるが、ある日黒馬の子が憂鬱な顔をして家を恋しがったり、お婆さんを連れてこられたらいいのと言う。かつて見張りで失敗した木兄が自分が連れてこようと申し出て、一日で連れてきて、黒馬の子と再会するというくだりがC, EにはあるがA, B, Dにはない。後でまた述べることになるが、Aでは最後にお婆さんを連れてきて再会する。Dでは帰省して再会する。しかしBではお婆さんとの再会の場面はない。

## 27. 猫

すでに述べたように猫が登場するかどうかで「黒馬」の筋は大きく2つのバージョンに分かれ



る。A, B, Dには猫が登場するが、C, Eは登場しない。マンガスがどういうふうに登場するかは猫の登場と大きな関わりがある。A, B, Dでは三人兄弟と妻たちの家に猫がいて、火を消してしまう。そのわけはAでは夫たちから何を食べても猫に与えるなど言われ、与えないでいたところ、猫が腹をたてて尻尾を水桶で湿らせて火を叩き消したのであるが、B, Dでは与えるのを忘れて猫を怒らせたという違いがある。

## 28. 誰が火を探しに行くか

猫に火を消されて困った妻たちは火を探しに行きマンガスの家へやって来る。Aでは石兄の妻、Bでは黒馬の子の妻（三女）が探しに行く。Dではまず長女が探しに行き見付けられず、次に次女が行きやはり見付けられず、最後に三女（黒馬の子の妻）が行って煙の出ている洞穴に辿り着く。

## 29. マンガスは火以外に何をくれるか<sup>(9)</sup>

マンガスは火をくれるが、さらにAではカラシ菜、Bでは黄色の花、Dでは黄色い油菜の花もくれる。これはマンガスの悪知恵であった。Aではカラシ菜の袋に穴が開いていて穴から漏れ、娘たちの家まで続いた。雨が降り日が照り、カラシ菜の芽が出て黄色い花を咲かせた。マンガスは娘たちの家がどこにあるか分かることになる。B, Dではマンガスに言われたとおり黄色い花を一つずつ落としながら家へ帰ったので、やはり家のありかを教えることになってしまう。Aでは気付かないうちに家を教える結果になったのであるが、なぜB, Dではマンガスに言われたとおりにしたのであろうか。Dでは黒馬の子の妻に火をくれたのは白髪の老婆であり、マンガスだとは思わなかったからであるが、Bでは火をもらうときには9つの頭があるマンガスであることに気付いているのにである。

C, Eには猫は登場しないから、火を探しに行く必要もない。マンガスはある日突然現われては妻たちを困らせる。

## 30. マンガスはどのように現われるか

マンガスは妻たちの家へやって来て威嚇し、A, Dでは血を吸い、B, C, Eでは貯えてあった獣の肉を食って帰って行く。これを知った夫たちは腹を立て、見張りをすることにする。まず石兄が見張りをするが失敗する。次に木兄が見張りをするが、また失敗する。最後に黒馬の子が見張りをして成功する。どこで見張りをするか、マンガスがどこから入ってくるか、なぜ見張りを失敗したかがバージョンによって微妙に違っている。次に表にして示す。

見張りの場所およびマンガスの侵入経路				失敗したわけ		
	石兄	木兄	黒馬の子	石兄	木兄	黒馬の子
A	入口の上	—	入口の後	おしっこ	おしっこ	成功
B	門の後座る	門の後立つ	—	おびえる	おびえる	成功
C	門	—	門の後		居眠り	成功
	後の門から					
D	大門口	窓の前	門の上			成功
	窓から 塀から					
E	門口	—	門の後		居眠り	成功
	後の門から					

失敗した理由はA, Bでは恐ろしくて何もできなかった(Aではさらにおしっこを漏らしてしまふ)からであるが、C, D, Eでは見張っていた場所と侵入経路が違っていただけであったり、居眠りをしたからである。A, Bにはマンガスの侵入経路は記されていない。

### 31. マンガスは何を食べたり飲んだりするか

最初に現れたとき、Aでは妻たちの血を毎日飲みに来ている、B, C, Eでは貯えてあった肉を食べる、Dでは長女の血を飲む。石兄の見張りとき木兄の見張りとき、マンガスが何を食べてたり飲んだり取っていったりしたかも微妙に違っている。これらをまとめて表にすると次のようになる。

マンガスが食うもの、取って行くもの			
	最初	石兄の見張りのとき	木兄の見張りのとき
A	妻たちの血	妻たちの血	妻たちの血
B	貯えておいた肉	妻たちの血	妻たちの血
C	貯えておいた肉	肉とバター	肉とバター
D	長女の血	次女の血	三女の血
E	貯えておいた肉	肉とバター	肉とバター

Dでは長女の血、次女の血、三女の血というように来るたびに違った人から血を吸っている。こういった描写は他のバージョンには見られない。A, Dでは妻(たち)が痩せ衰えていたり、顔色が悪くなったので夫たちが気付く。Dでは血を吸われた三姉妹はオンドルの上へ上がれなく

なる。黒馬の子がマンガスの頭を3本切り落として、やっと動けるようになる。

血を吸うか、肉を食べるかの違いのみならず、妻たちがどちらかを選ぶように勧めるかどうかにも違いがある。A, B, C, Eでは妻たちがマンガスにお願いしているのに対し、Dではマンガスがいきなり血を吸っている。また、Bではマンガスが妻たちの肉を食べにきたところ、妻たちは貯えておいた肉で我慢してもらっている。C, Dでは妻たちは被害はなく、貯えておいた肉とバターが犠牲になっている。

### 32. マンガスの見張りのとき黒馬の子は妻たちにどう忠告するか

Cでは家にいないように、Eでは外へ出ないようにとまったく逆の忠告をしている。

### 33. マンガスは男か女か<sup>(10)</sup>

正確にはA, Bではマンガス婆さん、Cではマンガス、Dでは白髪の老太婆、九頭の妖魔、Eでは九頭の妖魔である。婆さんを表す語はAでは *mugen*、Bでは *aane* である。C, Eでは婆さんを表す語はない。

### 34. 黒馬の子はまずマンガスをどうするか

石兄と木兄の失敗の後、黒馬の子が見張っていてマンガスをやっつけようとする。最初に切り落とした頭の数A, Bでは8本、C, Eでは1本、Dでは3本である。マンガスの頭が9本であるという点においてはバージョン間に差異はない。したがって残りがどうなったかであるが、A, C, D, Eでは最終的に9本とも切り落とすのに対し、Bではそのままであり1本残っている。

### 35. マンガスを追いかけるかどうか

頭を切り落とされたマンガスは逃げて行くが、追いかけるかどうかの違いが見られる。Aでは追いかけて半分の所までやって来る、Bでは追いかけてマンガスの家までやって来る、C, Dでは追いかけない、Eには記述がない。

### 36. 少年は何をしているか

マンガスを探してきて黒馬の子はマンガスの世話をしている少年に会う。Aでは牛、羊、山羊

の番をしている、Bでは記述なし、C、D、Eでは羊を放牧している。

### 37. 少年は殺されるか

Aではこの少年は黒馬の子に家畜の集め方を教えた後、殺されてしまう。

### 38. 牛の舌、犬の舌

マンガスは頭を切られて傷が痛いので子供に舐めるように言いつける。Aではすでに子供はいない。黒馬の子が代りに舐める。Bでは黒馬の子が少年に指図する。まず牛の舌で舐めるがザラザラしていて痛いので、乳を舐めてきてから舐めるように言われる。次に犬の舌で舐める。この二つの舌が現われるのがA、B、Dである。C、Eでは単に舐めるのである。

### 39. マンガスはどこで寝るか

舐めてもらった後マンガスは気持ち良くなって寝てしまうのであるが、Bだけは他とちょっと違った描写がある。少年はマンガスに鉄の寝床で寝るか、木の寝床で寝るか尋ねる。マンガスは鉄の寝床で暖かくして寝ると答えて鍋の中へ行く。

### 40. マンガスを最終的にどうやって退治するか

最終的にマンガスをどうやって退治するかがバージョンごとに異なっている。Aでは黒馬の子が頭を切り取る、Bでは鍋の中に入ったマンガスを煮て殺す、C、Eでは黒馬の子が4本の頭を、石兄と木兄が4本の頭を切り取る、Dでは先ず黒馬の子が3本の頭を、続いて三人が1本ずつ切り取る。

マンガスの頭の切り方を表にすると次のようになる。

マンガスの頭の切り方					
	最初	最後			
	黒馬の子	黒馬の子	石兄	木兄	黒馬の子
A	8本	1本			
B	8本				
C	1本	4本	( 4 本 )		
D	3本	3本	1本	1本	1本
E	1本	4本	( 4 本 )		

41. マングスを最終的に退治するとき兄弟はどこにいるか

A, Bでは黒馬の子が一人で退治したので、石兄と木兄は側にはいなかったが、Cでは石兄と木兄は門の後ろ、黒馬の子は箱の後ろに隠れていたことになっている。Dでは石兄が門の前、木兄が門の後ろにいて黒馬の子がマンガスの寝室へ侵入した。Eでは石兄と木兄は門の後ろ、黒馬の子は戸棚の後ろに隠れている。

42. マングスを退治するとき兄弟は何を持っているか

A, Bでは石兄と木兄は側にいなかった。Bではマンガスは鍋で煮て殺されるので、1本の頭が残ったままである。このとき黒馬の子が何を持っていたかは不明である。Dのみが持っている物がそれぞれ違っている。これは石兄が豚を弓で狩っていたこと、木兄が斧で柴を刈っていたことと関係がある。

	黒馬の子	石兄	木兄
A	刀	—	—
B	不明	—	—
C	ナイフ	ナイフ	ナイフ
D	刀	弓矢	斧
E	刀	刀	刀

43. マングスを退治した後どうするか

Aでは死体を焼き灰にして魔除けの石を置いて、マンガスが生まれ変わらないようにしている。他のバージョンではとくに描写はない。

44. お婆さんとの再会

すでに述べたが黒馬の子がお婆さんと再会するかどうか、いつ再会するかが少しずつ違っている。Aではお婆さんを最後に連れてくる、C, Eでは途中で連れてくる、Dでは黒馬の子が帰省する。しかしBでは黒馬の子とお婆さんとの再会はない。

## 45. バージョン間の違い

猫が登場しないC, Eはかなり細部まで一致する。違うのは次の4点にすぎない。

	C	E
お婆さんに息子がいたかどうか	いた	不明
三人兄弟が家を建てたかどうか	醜い家が一軒あった	家を建てた
料理の毒味をするかどうか	毒味をする	毒味をしない
マンガスの見張りのときの妻たちへの忠告	家にいないように	外へ出ないように

一方、猫の登場するA, B, Dには細部の違いがかなり目立つ。Dは文体的には洗練された漢語訳であり、A, Bにはない多くの装飾的な部分が際立っている。にもかかわらず、三人兄弟がどうやって妻を選ぶかや三人姉妹の容貌に関する描写がこのバージョンには欠如している。

A～Eに共通する部分だけを取り出して描写すると、あらすじに記したような表現になる。

## 46. A, B, Cの文体上の違い

Aはハルチ・ゴル方言とナリン・ゴル方言の中間の方言、Bはハルチ・ゴル方言、Cは東溝方言という違いがまず挙げられる。これらの音韻上の違いは角道 (1987) で述べたのでここでは繰り返さない。文体上の違いは文末形式に顕著に現われる。この違いは方言の差というよりは語り手の違いというべきものかもしれない。Aでは -ja (過去), -san ba (過去) の形式が多いのに対し、Bでは iiguna (現在) あるいは -san ba (過去), Cでは iiguna (現在) の形式が多い。文末形式が必ずしも過去形になっていない点が興味深い。-wa (過去) がCでは主として会話の部分に現われるのも重要な点である。

会話文を導入する形式がAでは・・・は言った (kileja)。「・・・」という独立した二つの文になっているのに対し、Bでは・・・は「・・・」と言った、Cでは・・・は言う (kilegu ni): 「・・・」とそれぞれ異なった形式になっている。

またCの特徴として、A, Bに見られない -duji (与位格+方向指示要素)、-reji (位格+方向指示要素) のような格形式や -nii ni (対格+主題標識) の ni を省略した形式が出現する。

-nge の (とくに名詞に付いて初出を表す) 用法はA, B, C間で大きな違いは見られない。

## 註

(1) 土族語には互助方言と民話方言という二つの大きな方言があり、ハルチ・ゴル (Halqi ghul) 方言、ナリン・ゴル (Narin

ghul) 方言、東溝 (Xjir ghul) 方言というのは互助方言の下位方言である。中国の資料で標準語とされているのは東溝 (Xjir ghul) 方言である。なお土族語のローマ字表記は正書法である。

- (2) 胃というのは土族語で gujee である。これはモンゴル語では反芻動物の胃を表すが、土族語やダグル語では人の胃も表す語である。胎包は土族語では bulai ger「子供のゲル (包)」となっている。ger は土族語でも家を表すことばであり、「包」はその漢語訳である。C のモンゴル語の漢語訳でも keiked ger「子供のゲル」となっている。

馬が仔馬を産むことを土族語で daahala- という動詞で表している。この動詞の語幹 daaha は「仔馬」を表す名詞である。対応するモンゴル語は「二歳馬」を表す。

- (3) 予想もしない所から何かが誕生するという話としては、指から蛙 (実は人間) が誕生する「蛙」の話もそうである。Тодаева (1973:213) および『土族語話語材料』(237-8) を参照。
- (4) 妙麦はお婆さんの手を火傷させる目的で用いられている。同じような目的でネズという植物が用いられることがある。Schröder のマンガスの第二話において、入口から次女がマンガスの手の上にネズを置いて痛めつける場面がある。(角道 (1991) 参照)

- (5) 兄というのは土族語で aaja であり、男性に対する敬称である。「～さん」ぐらいが適当な訳かと思われるが、黒馬の子自身もこの敬称を付けて呼んでいるので「～さん」と同一ではない。

出会う順序がAだけ違っているが、珍しいことではない。Schröder (1959:80-89) の「マンガス婆さん I」ではマンガス退治の援護者が蛙、卵、車輪、布巾、牛糞、ネズ、はさみの順に登場するが、Тодаева (1973:236-240) の「マンガス婆さん」では卵、錐、車輪、糞、はさみ、蛙の順に登場する。登場する者も順番も微妙に違う。

- (6) 旧暦4月8日についてはわずかに『土族簡史』(p.106) に2月2日、3月3日、4月8日には東溝大庄、梅馬等で廟会があると記されている。

- (7) 食物か飲み物かは重要な違いではない。飲み物でも食事の意味になりうる。

- (8) オンドルというのは土族語で pai、漢語訳で炕である。土レンガで作った寝台。煙突につながり火で暖をとる。Тодаева (1972:303) の5に「舅やお爺さんがオンドルに座ったら嫁たちはオンドルに上がって座らない。竈のところへ行行って座る。」というタブーが記されている。すぐ続いて6に「嫁は舅と同じ家 (ger) に寝ない。嫁と子供はオンドルで寝る。」と記されている。

錢中立 (1988)『青海風情』の土族人家の pp.82-83 に「オンドルは老人や客人の場所であり、子供や女は竈のところで活動したり、食事したり、世間話したり、遊んだり、刺繍などをしたりする。」とある。

- (9) Aでは gaizi となっており、土漢詞典には蓋菜とある。これは一年生の植物でカラシナの変種のことである。Bでは xira qijag「黄色い花」、Dでは油菜となっている。

- (10) マンガスの話は他にもあるが、容貌を詳しく記したものは見当たらない。わかるかぎりでは婆さんである。

## 参考文献

錢中立 (1988)『青海風情』青海人民出版社、西寧

清格爾泰等編 (1988)『土族語話語材料』(Mongyor kelen ü üge keelge yin materiyal) 蒙古語族語言方言研究叢書 015 内蒙古人民出版社

《土族簡史》編写組 (1982)『中国少数民族簡史叢書 土族簡史』青海人民出版社、西寧

中国民間文藝研究会青海省分会編 (1985)『土族民間故事選』中国民間文藝出版社、北京

朱剛、席元麟、星全成、馬学義、馬路盾辦編 (1992)『土族撒拉族故事選』上海文藝出版社、上海

角道正佳 (1987)「土族語の下位方言」『大阪外国語大学學報』第75-1.2号 49-63

角道正佳 (1990) 「土族語 (モンゴル語) における接尾辞 -ngge について」『大阪外国語大学論集』第1号 1-27

角道正佳 (1991) 「青海、甘粛省のモンゴル系民族に伝えられているマンガスの話」『日本とモンゴル』(社団法人日本モンゴル協会) 第26巻1号 (1991年9月 (No.83)) 55-67

Schröder, Dominik (1959) *Aus der Volksdichtung der Monguor*. 1. Teil, Otto Harrassowitz, Wiesbaden

Тодаева, Б. Х. (1973) Монгорский язык, Издательство «наука» главная редакция восточной литературы, Москва.

(1994年5月10日 受理)